



▲『仮装鬼踊りコンテスト』参加者のみなさん

8月24日(金)から26日(日)までの3日間、登別の夏祭りの終幕を飾る『第38回登別地獄まつり』が、登別温泉町の極楽通りをメイン会場に行われました。

初日は、登別温泉小学校のオニッコマーチングバンドによるりりしい演奏と勇壮な前触れ太鼓が地獄絵巻の始まりを告げると、地獄のふたが開いたとばかりに、若い衆が重さ約1トンの赤鬼のみこしを担ぎ、威勢良く練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』が行われました。

これに続く『地獄大行列』では、『閻魔大王からくり山車』が登場。形相を変えて地獄の審判を下す閻魔大王を一目見ようと、観光客が山車とともに列をなして歩きました。

まつりは、『鬼踊り大群舞』で最高潮に達し、鬼踊り参加団体と観光客が一緒になって、極楽通りを埋め尽くしました。

2日目は、『仮装鬼踊りコンテスト』が行われ、ユニークなコスチュームでまつりを盛り上げ、最終日には、閻魔大王に永遠の愛を誓う『エンマ大王前結婚式』や、フィナーレを飾る『昇天花火大会』が行われました。

好天に恵まれたまつりの3日間、約5万3千人の入込みをみせ、登別温泉街はまつり一色に染まりました。



▲形相を変えて地獄の審判を下す『閻魔大王からくり山車』

地獄絵巻、夏祭りの終幕を飾る

〜第38回登別地獄まつり〜

転ばぬ先の杖と知恵

〜一日転倒予防教室〜

9月7日(金)、市民会館で、市・教育委員会・登別厚生年金病院の主催による『一日転倒予防教室』が開かれました。

転倒による骨折で寝たきりになるのを防ぐため行われたこの教室では、まず、東京大学大学院身体教育学講座の武藤芳照教授が「高齢になって転ぶのは、体全体の運動・感覚機能が少しずつ衰えるため。日ごろからしっかりと歩くことを心掛けましょう」と講演。

講演の後には、老人大学の学生5人がモデルになり、転倒を予防する歩行や運動の実技指導が行われました。



どんな模様になるのかな

〜絞り染め体験〜

8月25日(土)、郷土資料館主催による『絞り染め体験』が文化伝承館で開催され、小・中学生や大人など25人が参加しました。

参加者は、同館ボランティアグループSLGのメンバーのアドバイスを受けながら、45センチ四方の木綿の白い布に、思い思いの模様を描こうと、糸で縛り、紺色の染料に浸したり、空気にさらしたりを数回繰り返し、最後に丁寧に水洗いをして作品を完成。



鮮やかな色と世界に1枚しかないオリジナルの作品に、参加者から大きな歓声があがっていました。

◀絞り染めを楽しむ子どもたち

貴重な自然を子どもたちへ

〜キウシト湿原観察会〜

9月2日(日)、キウシト湿原を考える会の主催による『キウシト湿原観察会』が、若山町の現地で行われ、同会の会員や一般市民など24人が参加しました。

観察会では、ふるさとの自然を保護しようと活動している『ふるさと自然情報局』のメンバーが、生息に適した自然環境が失われ数を減らしている『コタヌキモ』や『ホソバノシバナ』、『エゾホトケ』など同湿原に生息する動・植物の紹介や、植物の盗掘の実態などについて説明しました。

参加者からは、同湿原の乾燥化を危ぶむ声や、貴重な自然を子どもたちに残してあげたいといった声が聞かれるなど、同湿原への認識を深めていました。

